

令和6年度 第1回 高岡市在宅医療・介護等連携推進協議会 議事録

日 時 令和6年5月24日(金) 19時～20時

場 所 高岡市役所8階 802会議室

出席者

- ・委員：18名、大崎委員欠席
- ・アドバイザー：1名

1. 開会挨拶

2. 委員の紹介

3. 協議会の設置目的・事業内容等について

4. 会長の選出

5. 協議事項

- (1) 令和6年度 在宅医療・介護等の連携推進に向けた体制(案)について 【資料No.1】
- (2) 各ワーキングの方向性(案)について 【資料No.2】

【意見交換】

(1) 令和6年度からの高岡市の在宅医療・介護等の連携推進体制について

[会長]

- ・資料No.1の「令和6年度からの高岡市の在宅医療・介護等の連携推進体制」について、計画期間を設定しているのか。

[事務局]

- ・長い目で考えていく必要があると考えており、特に、期間は設定していない。

[会長]

- ・在宅医療・介護連携等推進協議会と在宅医療・介護等連携部会の違い、在宅医療・介護等連携部会の開催頻度を教えていただきたい。

[事務局]

- ・各ワーキング部会で具体的な取り組みを進めていくが、在宅医療・介護等連携推進協議会(以下、協議会)開催前に在宅医療・介護等連携部会(以下、部会)を開催し、各ワーキング部会の進捗状況や達成目標等を協議した上で、協議会に挙げていきたい。また、部会については協議会の前に開催していく予定である。

[委員]

- ・高岡多職種ネットが、在宅支援ワーキング部会、情報共有ワーキング部会両方に挙げられており役割が重複しているように思うが、なぜ2つに分けたのか。

[事務局]

・在宅支援ワーキングでは、在宅支援者の質の向上を目的に、アンケート調査を行う等ニーズの把握や年3回の研修の企画を行う予定としており、うち1回は、高岡多職種ネットを活用した事例検討を行いたいと考えているため、「高岡多職種ネット」というワードが出ている。

情報共有ワーキングでは、具体的な高岡多職種ネットの運用についての協議や、ICTを活用しない情報共有の手法についても協議していきたいと考えている。

[委員]

・各ワーキング部会で、部会長を選出されると思うが、各ワーキングの部会長より協議会や部会で進捗状況等の報告があればいいと思う。

[事務局]

・各ワーキング部会の進捗状況は、協議会で報告する予定。報告者については、今後、検討したい。

[委員]

・協議会では、各ワーキングの部会長が報告する形が望ましいと考える。

[会長]

・各ワーキングの取り組み報告については、各ワーキングの部会長が、毎回部会や協議会で説明することになると、各ワーキングの部会長の負担が大きくなるので、今後検討していく必要がある。

[委員]

・各ワーキングで話し合った内容を協議会等でどのように報告されるのか不安に思っている。先ほどの意見に賛成であり、部会のメンバーが報告する形が望ましい。また、協議会は全ての事柄を把握する必要がある。

現在、訪問看護ステーションのサポート事業として今回協議会の委員となった。委員が交代した場合に、協議会や部会の委員の役割が大変であると引継ぎ等が難しいと感じる。

[委員]

・各ワーキング部会で出た意見を協議会で協議するには、各ワーキング部会の内容の把握が必要である。各ワーキングの開催後に協議会の委員にも共有していただき、確認のうえ、協議会に出席できればいいと思う。

[事務局]

・各ワーキング部会の議事録については共有させていただく。

(2) 目指すべき姿について

[会長]

・資料 No. 1 の冒頭にある、目指すべき姿：①市民の誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる。②地域の医療、介護及び障がい福祉関係者による連携の推進 に向けて、今は何とか頑張ってきていると思う。10年後、我々専門職、支援する側も高齢化していく。本協議会で、10年後もよりよいサービスを提供するためにどうしたらいいかを考えていければいいと思う。この点も視野に入れ、協議を進めていければいい

いと考える。

[アドバイザー]

・この協議会は、体制をつくることが主目的となる。3つのワーキング間の共有も必要である。各ワーキング部会で具体的な目標を設定されると思うが、プロセス評価が重要である。能力の向上を目標とすると、評価がしにくいいため、どのような目標を設定するのか、今後検討が必要である。目標の内容を検討することにより、1年間の事業の成果がみえるのではないか。

[会長]

・この協議会は継続して進めていくと思うが、1年後、目に見えて進んだことがわからないと、次年度何をすればいいかがわからない。今後、各ワーキング部会で評価についても検討していく必要がある。

例えば普及・啓発ワーキング部会については、年度初めと、1年後にアンケートを聴取する機会があればよいと考える。

各ワーキング部会の取り組みについてのアドバイスはあるか。

[委員]

・何年先を見越して在宅医療・介護等の連携をすすめていただきたい。

伏木地区は、能登半島地震により、ハード面では、家が壊れて在宅医療が提供できないケースがある。ソフト面では、介護者が1人で、何とか介護している家庭が多いといった現状がある。

(3) 普及啓発ワーキング部会について

[会長]

・普及・啓発ワーキング部会について、厚生センターで何か実施しているか。または意見はあるか。

[委員]

・高岡医療圏で各市の取り組みを把握できるため、他市の取り組みについて情報提供できればと思う。

[会長]

・高岡市医師会では、過去に寸劇により啓発をしていたこともある。何かわかりやすい形で市民に啓発できればよい。

(4) 情報共有ワーキング部会について

[会長]

・多職種ネットは良いツールではあるが、敷居が高いと感じる。市では、ライン等の気軽に利用できるツールの活用について考えているか。個人情報難しいとは思いますが、情報共有するには良いと感じている。

[事務局]

・今年度より、高岡多職種ネットの運用が高岡市医師会から高岡市に運用主体が変更となったところである。高岡多職種ネットの研修会も、現在介護事業所を中心に始めており、利用

者は増えてきている。まずは、高岡多職種ネットの利用者を増やしていきたい。

[会長]

・高岡多職種ネットは職場でしか利用できず、利用する側としては、簡単にやりとりができるツールもあればいいと考える。今後、情報共有ワーキング部会でツールについて検討していただきたい。

(5) 在宅支援ワーキング部会について

[会長]

・在宅支援ワーキング部会について、障がい者支援の立場からの意見はないか。(白崎会長)

[委員]

・障がいの方の場合、高齢者に限らず、若年の方や、心身の状況等多種多様である。中には、在宅医療を継続したいとの希望がある方もいる。在宅医療について情報を提供し、デイサービス等に繋げていきたい、障がいのことで何かあれば相談してほしい。

[委員]

・会議において、当日に資料を確認すると、発言できないことが多いのではないか。会議の前に、前もって資料配付やこれを議題にしたいなどの情報を共有する機会があればいい。また、LINEで共有することはできないか。

[事務局]

・LINEはセキュリティ上問題があるので、今後、高岡多職種ネットのグループ機能の活用、メールの活用等、検討していきたい。

[委員]

・資料を事前に確認できればよい。

・LINEでグループを作成する形がシンプルであり、既読機能もある。メーリングリストは実際に行ったことがあるが、返答がないのが現状である。やりやすい方法を検討していただきたい。

・普及啓発においては、市民だけでなく、従事者への普及啓発も重要であり、従事者の評価に関しては事業者が実施しているかの評価も大事である。例えば、高岡医療圏では、医師会で人生会議の記録用紙を作成している。人生会議の記録の活用、実践しているかどうかの評価があればよい。

(6) 今後の進め方について

[会長]

・第1回ワーキング部会では、今後、何を指標にして進めていくのかを協議してもらいたい。

[委員]

・別紙3のデータの提供はありがたいが、比較するものがない。県内の他市、全国平均、同規模の市のデータの比較があればいい。現状だとデータを受けての判断が難しい。細かなデータを作っていくことも大事であると考え。アドバイザーのご意見をいただき、客観的なデータをもとに意見を進めていければと思う。

[アドバイザー]

・別紙3の指標は、この事業のみの評価ではなく他の要素も含んで数値が出ている。単純な基準値のみならず、高岡の状況を勘案しながらの分析が必要である。

[会長]

・要介護の方が初めて来院される際、状況を把握しづらい。基本的な情報が、医師だけではなく介護職種など誰でもわかるような情報共有ツールがほしい。他市にはあると聞いている。検討をお願いしたい。

【今後の予定】

第2回は9月、第3回は12月を予定